

190212

都市再生整備計画 事後評価シート(原案)

ともべ えきしゅうへん ち く
友部駅周辺地区

平成31年2月
いばらきけん かさまし
茨城県笠間市

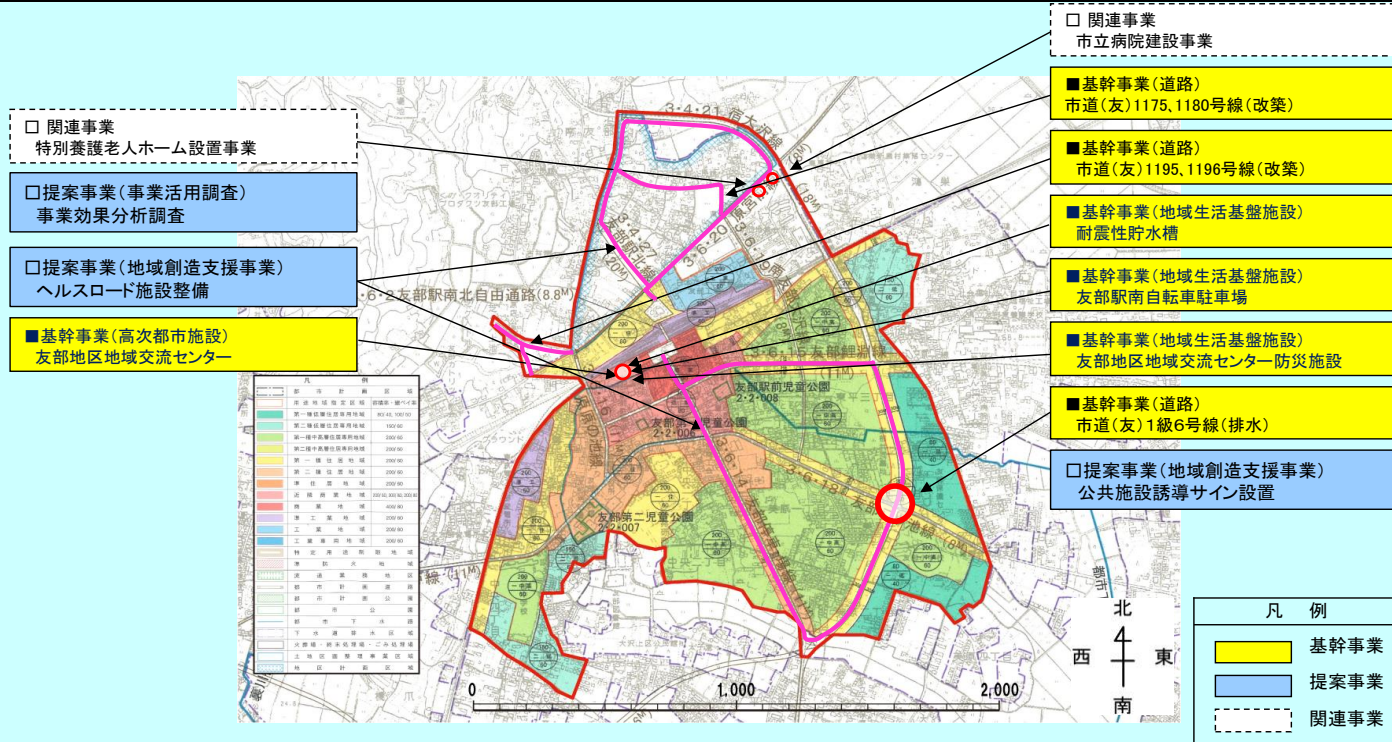
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	茨城県		市町村名	笠間市		地区名	友部駅周辺地区			面積	234ha		
交付期間	平成26年～平成30年		事後評価実施時期	平成30年度		交付対象事業費	1,052百万円	国費率	0.4				
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 <input type="checkbox"/> 友部地区地域交流センター <input type="checkbox"/> 友部駅南自転車駐車場 <input type="checkbox"/> 市道(友)1175,1180号線(改築) <input type="checkbox"/> 道路事業:市道(友)1195、1196号線(改築) <input type="checkbox"/> 道路事業:市道(友)1級6号線(排水) <input type="checkbox"/> 耐震性貯水槽 <input type="checkbox"/> 友部地区地域交流センター防災施設										
		提案事業	<input type="checkbox"/> 事業効果分析調査 <input type="checkbox"/> ヘルスロード施設整備事業 <input type="checkbox"/> 公共施設誘導サイン設置事業										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
		提案事業	事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
	新たに追加した事業	基幹事業	事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
		提案事業	事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
交付期間の変更	当初	平成26年～平成30年		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-							
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	NPO法人等活動団体数	団	149	H24	160	H30	-	204.0	○	あり なし	市民活動への参加に対する啓発が進むとともに、笠間市地域交流センターともべ「Tomoa」が整備され、同施設を活動の場として利用する団体が増加した。	-
	指標2	定期的な運動習慣	%	33.9	H23	35.0	H28	-	40.0	○	あり なし	ヘルスロードの整備に伴い、ウォーキングイベントの開催等を行うことによって、市民の認知度が向上し利用が促進されている。	-
	指標3	狭あいな道路の解消数	件	0	H25	102.0	H29	-	118.0	△	あり なし	● -	計画に位置づけられた路線の道路改良が進んだことにより、宅地へアクセスする道路の狭あいな区間が解消されており、事後評価時点で完了していない区間の整備により、指標の達成が見込まれる。
指標4	良好な市街地が形成されてきていると感している市民の割合	%	36.19	H24	38.70	H30	-	38.68	△	あり なし	● -	本市の玄関口である友部駅周辺において、本事業による基盤整備が進むとともに、笠間市地域交流センターともべ「Tomoa」が開設されたことにより、利便性と賑わいのある市街地環境が創出されたと感じる市民の割合が多くなっている。南友部地区での市道整備の進捗や、笠間市地域交流センターともべ「Tomoa」が市民に浸透することにより、指標の達成が見込まれる。	平成31年7月1日
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
その他の数値指標1	笠間市地域交流センターともべ「Tomoa」の利用者数	人	65,592	H29	-	-	68,000	○	○	あり	笠間市地域交流センターともべ「Tomoa」の開設後、認知度の向上や講座の充実に伴い利用者数の増加がみられ、市民の交流の場として活用されている。	平成31年7月1日	
その他の数値指標2	友部地区居住者のうち「良好な市街地が形成されてきていると感している市民の割合」	%	36.86	H25	-	-	40.00	○	○	-	友部駅周辺において、本事業による面的な事業の実施や関連事業である、地域医療センターかさまの整備が行われたことにより、駅周辺の拠点性の向上と来街機会の増加が図られたことにより、市街地環境に対する満足度が向上した。	-	
4) 定性的な効果発現状況													
5) 実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	-			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-				
	住民参加プロセス	個別事業に関する説明会等の開催			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-				
	持続的なまちづくり体制の構築	笠間市地域交流センターともべ「Tomoa」の運営			都市再生整備計画に記載し、実施できた				-				
		ヘルスロードを活用したイベントの開催			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● -				

様式2-2 地区の概要

友部駅周辺地区整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	指標	単位	従前値	目標値	従前値	目標値	従前値	目標値
大目標 健康都市づくりを目指したコンパクトシティ 小目標① 多くの世代が行き交う賑わいの創出 小目標② 医療・福祉が連携した健康の増進 小目標③ 来街者・駅利用者及び地域住民の利便性向上	NPO法人等活動団体数	団	149	H24	160	H30	204	H30
	定期的な運動習慣	%	33.9	H23	35.0	H28	40.0	H28
	狭い道路の解消数	件	0	H25	102	H29	118	H30
	良好な市街地が形成されてきていると感じている市民の割合	%	36.19	H24	38.70	H30	38.68	H30



まちの課題の変化

○拠点となる笠間市地域交流センターとも「Tomoa」の利用を動機とした来街者が増加しているが、既存の商店との連携や空き店舗の利用促進が課題となる。
 ○地域医療センターかさまの開設やヘルスロードの整備により、健康づくりに取り組むまちとしてのイメージが形成されたが、今後一層の拠点性向上に取り組むため、市庁舎や図書館周辺との連携を強化する必要がある。
 ○道路や貯水槽の整備により、市街地の利便性や安全性が向上したことから、市街化促進に取り組む必要がある。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

○今後のまちづくりでは、人口減少や高齢化に対応するため、駅周辺市街地では都市機能や居住機能の充実が重要になることから、本事業による整備効果を生かしながら、拠点性と利便性を高める施策展開が必要である。
 ○現在策定している、都市計画マスタープラン、立地適正化計画においては、本事業による効果を踏まえつつ、友部駅周辺地区の将来的なビジョンを描くことが必要である。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9—有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●	—	—	—
B. 目標を定量化する指標	●		良好な市街地が形成されてきていると感じている市民の割合 37.0%	良好な市街地が形成されてきていると感じている市民の割合 38.70%	笠間市地域交流センターともべ「Tomoa」の規模の拡大による事業効果の増進を考慮し、目標値を引き上げた。
C. 目標値		●	—	—	—
D. その他(事業区域)		●	—	—	—

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業

事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道(友)1175、1180号線(改築)	200	550m	161	550m	事業費の変更(減額)	なし	●	
道路	市道(友)1195、1196号線(改築)	75	500m	92	500m	事業費の変更(増額)	なし		●
道路	市道(友)1級6号線(排水)	23	180m	21	80m	事業延長の変更(180m→80m)	なし	●	
地域生活基盤 施設	友部駅南自転車駐車場	49	360台収容	250	255台収容	収容台数の変更(360台→255台)	あり(地下式により、景観に配慮した整備計画となることから、良好な市街地が形成されてきていると感じている市民の割合を37.0%から38.70%に修正した。)	●	
地域生活基盤 施設	耐震性貯水槽	18	100㎡、40㎡	10	100㎡	設置箇所の変更(2箇所→1箇所)	なし	●	
地域生活基盤 施設	友部地区地域交流センター防災施設	—	—	5	防災井戸・トイレ	児童公園に設置する計画の施設を集約	なし	●	
地域生活基盤 施設	友部駅前児童公園防災施設	5	防災トイレベンチ他	—	—	友部地区地域交流センターの敷地内に集約	なし	—	—
地域生活基盤 施設	友部第一児童公園防災施設	5	防災トイレベンチ他	—	—	友部地区地域交流センターの敷地内に集約	なし	—	—
高次都市施設	友部地区地域交流センター	428	1,100㎡	491	1,261㎡	規模の変更(1,100㎡→1,261㎡)	あり(規模の拡大により、拠点機能の充実が図られることから、良好な市街地が形成されてきていると感じている市民の割合を37.0%から38.70%に修正した。)	●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業

事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	ヘルスロード施設整備	10	5,400m	6	5,600m	整備延長の変更(5,400m→5,600m)	なし	●	
	公共施設誘導サイン設置	24	16箇所	14	8箇所	設置箇所の変更(16箇所→8箇所)	なし	●	
事業活用調査	事業効果分析調査	2	—	2	—	—	なし		●
まちづくり 活動推進事業	啓発事業	3	—	—	—	H27.4.9要綱改正により交付対象外となったため取りやめ	なし	—	—
	地域活性化市民活動支援事業	10	—	—	—	H27.4.9要綱改正により交付対象外となったため取りやめ	なし	—	—

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
				基準年度		基準年度		目標年度					あり	なし		
指標1	NPO法人等活動団体数	団	友部地区で活動しているNPO法人等の数	-	-	149	H24	160	H30	モニタリング	-	-	モニタリング	-	-	-
										事後評価	確定見込み ●	204	事後評価	○	-	-
指標2	定期的な運動習慣	%	市民アンケート調査	-	-	33.9	H23	35	H28	モニタリング	-	-	モニタリング	-	-	-
										事後評価	確定見込み ●	40	事後評価	○	-	-
指標3	狭あいな道路の解消数	件	狭あいな道路が解消された道路沿線の宅地数	-	-	0	H25	102	H29	モニタリング	-	-	モニタリング	-	●	-
										事後評価	確定見込み ●	118	事後評価	△	-	-
指標4	良好な市街地が形成されてきていると感じている市民の割合	%	市民アンケート調査	-	-	36.19	H24	38.70	H30	モニタリング	-	-	モニタリング	-	●	-
										事後評価	確定見込み ●	38.68	事後評価	△	-	-

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	市民活動への参加に対する啓発が進むとともに、笠間市地域交流センターともべ「Tomoa」が整備され、同施設を活動の場として利用する団体が増加した。	笠間市地域交流センターともべ「Tomoa」での市民活動が活発化しており、市民の交流による賑わいの創出を評価するため、本指標を補う指標を設定する。
指標2	ヘルスロードの整備に伴い、ウォーキングイベントの開催等を行うことによって、市民の認知度が向上し利用が促進されている。	-
指標3	計画に位置づけた路線の道路改良が進んだことにより、宅地へアクセスする道路の狭あい区間が解消されており、事後評価時点で完了していない区間の整備により、指標の達成が見込まれる。	-
指標4	本市の玄関口である友部駅周辺において、本事業による基盤整備が進むとともに、笠間市地域交流センターともべ「Tomoa」が開設されたことにより、利便性と賑わいのある市街地環境が創出されたと感じる市民の割合が多くなっている。南友部地区での市道整備の進捗や、笠間市地域交流センターともべ「Tomoa」が市民に浸透することにより、指標の達成が見込まれる。	本指標は、市全体の評価指標となっているため、その他の指標として、友部地区に居住する市民を対象とする集計結果を検証する。

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
				基準 年度		基準 年度					
その他の 数値指標1	笠間市地域交流センター ともべ「Tomoa」の利用者 数	人	-	-	65,592	H29	モニタリング	-	-	本施設の整備に伴い、本施設を拠点とする市民活動が活性化していることから、本計画の整備方針として掲げている「多くの世代が行き交う賑わいの創出」を評価するために設定する。	本施設は、事業期間中に整備されたことから、開設後の利用者の動向を把握する。
							事後評価	確定	見込み		
その他の 数値指標2	友部地区居住者のうち 「良好な市街地が形成されてきていると感じている 市民の割合」	%	-	-	36.86	H25	モニタリング	-	-	指標4を補完するため、友部駅を利用する機会が多い友部地区居住者を抽出して評価する。	-
							事後評価	確定	見込み		
その他の 数値指標3							モニタリング	-	-		
							事後評価	確定	見込み		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

○地域医療センターかさまは、医療だけでなく、包括支援センターや子育て等の福祉機能も併設され、ヘルスロードの整備と合わせて、健康づくりに取り組むゾーンとしてのイメージが高くなっている。
 ○笠間市地域交流センターともべ「Tomoa」の利用者の増加に伴い、周辺の店舗等への回遊が期待されるとともに、指定管理者により夜間の講座の開催にも取り組んでいることから、働いている層等の新たな利用者がみられるようになっている。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
-	予定どおり実施した	-	-
	予定はなかったが実施した	-	
	予定したが実施できなかった (理由)	-	

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
個別事業に関する説明会等の開催	予定どおり実施した	-	施設整備における市民への計画内容の提示や意見の把握は、市民に親しまれる施設整備に有効な手法であることから、今後も個別事業の実施においては、引き続き市民や利害関係者への説明機会の確保に取り組む。
	予定はなかったが実施した	●	
	予定したが実施できなかった (理由)	-	

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
笠間市地域交流センターともべ「Tomoa」の運営	予定どおり実施した	-	○笠間市地域交流センターともべ「Tomoa」の運営は、指定管理で行っているが、年2回の定例会や協議会を開催し、運営状況についての確認や連携支援を行える体制が整っている。	本施設のような拠点施設の運営については、ソフト面の充実が重要であることから、引き続き運営体制や連携体制の充実に取り組むとともに、他施設への展開についても検討を行う。
	予定はなかったが実施した	●		
	予定したが実施できなかった (理由)	-		
ヘルスロードを活用したイベントの開催	予定どおり実施した	-	○ヘルスロードについては、年3回のイベントを実施しており、20~30人参加している。当該イベントについては、今後も同様の頻度で開催することとしている。	整備した施設を効果的に活用するためには、ソフト事業が重要であることから、保健や健康増進分野と連携した事業についても検討する。
	予定はなかったが実施した	●		
	予定したが実施できなかった (理由)	-		

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会議	企画政策課 市民活動課 健康増進課 消防本部警防課 市立病院 都市計画課 管理課 まちづくり推進課 建設課(主管課)	平成30年10月	建設課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1	指標2	指標3	指標4
指標名		NPO法人等活動団体数	定期的な運動習慣	狭あいな道路の解消数	良好な市街地が形成されてきていると感じている市民の割合
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	市道(友)1175、1180号線(改築)	—	笠間市地域交流センターともべ「Tomoa」が開設したことにより、NPO法人等の活動拠点として活用され、法人等の活動が活性化した。笠間市地域交流センターともべ「Tomoa」は、活動場所を提供するだけでなく、法人や団体の交流の場ともなっており、様々な分野での活動や自主的な講座の開催につながる等、市民の来訪機会の創出が図られている。	◎	友部駅北部での市街地形成が期待される中で、地区計画区域を対象に計画的な道路整備を進めたことにより、狭隘道路の解消と宅地へのアクセス向上が図られ、今後の市街地形成の基盤が整備された。
	市道(友)1195、1196号線(改築)	—		◎	
	市道(友)1級6号線(排水)	—		○	
	友部駅南自転車駐車場	○		—	
	耐震性貯水槽	—		—	
	友部地区地域交流センター防災施設	—		—	
	友部地区地域交流センター	◎		○	
提案事業	ヘルスロード施設整備	○	◎	—	また、医療、福祉、保健が一体となった、地域医療センターかさまが開設したことにより、健康をテーマとした地域イメージの向上にもつながっている。
	公共施設誘導サイン設置	○	○	—	
	事業効果分析調査	—	—	—	
関連事業	市立病院建設事業	○	○	—	○
	特別養護老人ホーム設置	—	—	—	

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	指標1	指標2	指標3	指標4
市民活動の拠点として、笠間市地域交流センターともべ「Tomoa」の活用を推進する。	周辺の住宅地や他のヘルスロードとの連携を充実することにより、一層の利用促進に取り組む。	道路整備の効果を活用するため、地区計画に沿って市街地形成を促進する。	立地適正化計画との整合を図りながら、友部駅周辺の拠点機能充実とコンパクトなまちづくりを進める。また、本事業による整備効果を今後のまちづくりに生かすため、市役所周辺地域を含む将来ビジョンを検討する。	

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2			指標3			指標4		
指標名		NPO法人等活動団体数			定期的な運動習慣			狭あいな道路の解消数			良好な市街地が形成されてきていると感じている市民の割合		
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	市道(友)1175、1180号線(改築)												
	市道(友)1195、1196号線(改築)												
	市道(友)1級6号線(排水)												
	友部駅南自転車駐車場												
	耐震性貯水槽												
	友部地区地域交流センター防災施設												
	友部地区地域交流センター												
提案事業	ヘルスロード施設整備												
	公共施設誘導サイン設置												
	事業効果分析調査												
関連事業	市立病院建設事業												
	特別養護老人ホーム設置												

※目標未達成への影響度

- ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- 一: 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)			
------------------	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会議	企画政策課 市民活動課 健康増進課 消防本部警防課 市立病院 都市計画課 管理課 まちづくり推進課 建設課(主管課)	平成30年10月	建設課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題市再生整備計画に記載したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した新たな課題
多くの世代が行き交う賑わいの創出	○笠間市地域交流センターともべ「Tomoa」で夜間の講座開催に取り組むことにより、昼間利用できない働く人や学生等の層に利用が広がっている。	○空き店舗の解消につながっていない状況であり、引き続き、市街地活性化補助金等を活用して利用促進に取り組む必要がある。	○駅前市街地の賑わいを創出するため、笠間市地域交流センターともべ「Tomoa」の利用者を周辺の商店などに誘導することが必要である。 ○健康づくりに取り組むゾーンとしてのイメージが向上したことから、今後は市庁舎や図書館周辺までを含んだ区域でのまちづくりが期待される。
医療と保健、福祉が連携した健康の増進	○地域医療センターかさまが建設されたことにより、医療、福祉、保健サービスがワンストップで提供できる体制が整うとともに、ヘルスロードの整備により、健康づくりに取り組むゾーンとして地域のイメージ向上につながっている。	なし	
来街者・駅利用者及び地域住民の利便性向上	○狭隘道路の整備や自転車駐輪場の整備により、来街者や駅利用者の利便性が向上した。自転車駐輪場については、利用時間を24時間としたことから、利便性の向上と利用者の増加につながっている。	なし	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	○笠間市地域交流センターともべ「Tomoa」の運営体制の充実	○市及び指定管理者との連携を強化するとともに、利用者によるイベントの開催などを促進する。	○自主的なイベントの開催

B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	空き店舗の利活用促進	○市街地活性化補助金等を活用した空き店舗対策を継続する。	○市街地活性化補助金
	駅前市街地の賑わい創出	○笠間市地域交流センターともべ「Tomoa」と周辺商店等との連携方策について検討する。	○商店等と連携したイベントの開催
	市庁舎や図書館周辺までを含んだ区域でのまちづくり	○関係課を交えて将来ビジョンの策定に取り組む。	○道路環境の改善 ○誘導サインの整備

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

レ	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
レ	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
レ	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
レ	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
レ	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度					予定時期	計測方法	その他特記事項
指標3	狭あいな道路の解消数	件	0	H25	102	H29	確定 見込み ●	118		あり なし	平成31年7月1日	1:2,500の白図に、計測時点以降に狭あいな道路が解消された区間と宅地をプロットし確定値とする。	—
指標4	良好な市街地が形成されてきていると感じている市民の割合	%	36.19	H24	38.70	H30	確定 見込み ●	38.68		あり なし	平成31年7月1日	平成31年度中に公表予定である「市民実感度調査」を用い確定値とする。	—
							確定 見込み			あり なし			
							確定 見込み			あり なし			
							確定 見込み			あり なし			
その他の数値指標2	友部地区居住者のうち「良好な市街地が形成されてきていると感じている市民の割合」	%	36.86	H25			確定 見込み ●	40.0			平成31年7月1日	平成31年度中に公表予定である「市民実感度調査」を用い確定値とする。	—
							確定 見込み						
							確定 見込み						

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	○経常的に把握している数値を使用するとともに、設定根拠が明確であったため、評価時点での作業が円滑に行うことができた。	○指標の設定においては、事業との関係性ととともに、把握のしやすさや定義についても考慮する必要がある。 ○市民実感度調査が実施されているため、事業期間中の達成状況の推移をみる指標として活用することが考えられる。
	うまくいかなかった点	なし	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	○賑わい、健康づくり等の目標に沿って指標が設定されており、効果的な達成度の把握ができた。	○事業によって直接生じる効果だけでなく、今回設定したNPO法人等活動団体数のように、活動の場(笠間市地域交流センターともべ「Tomoa」)の整備により発生する効果を把握できる指標(アウトカム指標)の設定を検討する必要がある。
	うまくいかなかった点	○良好な市街地が形成されていると感じている市民の割合(市民実感度調査)は、全市を対象としたものであったため、地区内での事業による効果を把握する指標としては問題があった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	○各事業の実施段階において市民への説明を行うことにより、計画への理解を醸成することができた。	○事業の実施においては、計画の周知とともに、整備後の利活用について周知するため、説明会等を開催することが望まれる。 ○個別事業だけでなく、都市再生整備計画全体についての周知についても、これまで以上に充実する必要がある。
	うまくいかなかった点	○都市再生整備計画に対する市民の関心が高くないことから、都市再生整備計画を活用したまちづくりの周知に努める必要がある。	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	○当初目標値と評価値の定義が明確であったため、円滑に評価を行うことができた。	○事業計画の策定や事業期間においては、関係課の間で定期的な協議の場を設置することが望まれる。
	うまくいかなかった点	○個別事業や事業計画の変更において、関係部署との連携が不十分な点がみられた。	
その他	うまくいった点	○貯水槽については整備の必要性はあるものの設置場所の確保が困難であることから、本事業のように施設整備に合わせて貯水槽を設置する方法は有効である。	○事業計画の策定においては、対象地区の消防水利の状況を確認し、必要であれば貯水槽の設置について検討する。
	うまくいかなかった点	—	

添付様式6—参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

岩間駅周辺地区都市再生整備計画

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	笠間市ホームページに公表期間を掲載し、原案を公表する。	平成30年11月2日～15日	公表期間(2週間)	<input type="checkbox"/> 電子メールによる受付 <input type="checkbox"/> 指定様式によるFAX及び窓口での提出受付	建設課
広報掲載・回覧・個別配布	広報かさまお知らせ版に公表期間を掲載する。	平成30年10月25日号	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	建設課窓口での閲覧(窓口に原案を配置する)	平成30年11月2日～15日	公表期間(2週間)		

住民の意見	意見無し				
-------	------	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	山田稔 茨城大学大学院教授 工学博士 藤田幹雄 茨城県建設技術公社 常任理事	平成30年8月28日 平成30年11月27日	建設課	笠間市まちづくり交付金 評価委員会設置要項(平成20年10月10日)	独自に設置
その他の委員	大貫千尋 笠間市議会 建設土木委員 根本榮一 笠間市都市計画審議会会長 野上寛子 笠間市都市計画審議会委員				

審議事項※1	委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	
方法書	○特になし
成果の評価	○目標値の設定理由についての質疑があり、NPO法人活動団体数、定期的な運動習慣、狭隘道路が解消された宅地数、良好な市街地が形成されていると感じる市民の割合について、それぞれ設定の考え方を説明し理解された。 ○笠間市地域交流センターともべ「Tomoa」の運営体制の充実と残された課題については、笠間市地域交流センターともべ「Tomoa」を利用する団体等の自主的な活動を行うようになっており、それらについて、交流センターとして、継続的に支援を行う体制を構築していくことを確認した。 ○ヘルスロードの利用促進については、イベントを継続して実施することにより、本事業により整備された施設を効果的に活用し、運動習慣の向上に努めることを確認した。
実施過程の評価	○本事業に関わらず、行政として実施する事業については、計画内容や住民に対する影響等について十分な説明を行う必要があることが指摘された。 ○自転車駐車を地下式に変更した理由について質疑があり、施設規模確保等のために地下式に変更した旨説明を行った。
効果発現要因の整理	○本事業により、友部駅周辺の整備が進み、良好な市街地が形成されているという評価が高まっているが、これらの効果を活用するため、市役所周辺地域等を含む将来ビジョンの作成が期待される。
事後評価原案の公表の妥当性	○事後評価原案公表の手続きは妥当であると認められた。
その他	○特になし。
事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	○事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくり方策の作成	○バリアフリー化された駅周辺の活用や、市庁舎・図書館周辺までを含めたまちづくりについては、やらずに終わることがないように、どこの部局が何をするということがわかるような記載をする必要がある。
今後のまちづくりについて審議	○今後のまちづくりの方策や課題、フォローアップについては、しっかり実施する必要がある。
その他	○笠間市地域交流センターともべ「Tomoa」の運営体制について、利用者サイドの意向が反映されるようになり、自主的な活動が実施されている。
今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	○笠間市地域交流センターともべ「Tomoa」の整備だけでなく、友部駅周辺の重要性の認識や市庁舎を含めたまちづくり等について記載されているが、議論の仕方やビジョンの作成等について具体的に進める必要がある。
その他	○事業を実施する際は笠間市の現状に照らして必要性を示すとともに、市民の声を十分に反映する必要がある。

※1 審議事項の詳細は「評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

都市再生整備計画(第3回変更)

友部駅周辺地区

茨城県 笠間市

平成30年 3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	茨城県	市町村名	笠間市	地区名	友部駅周辺地区	面積	234 ha ha					
計画期間	平成	26	年度	～	平成	30	年度					
					交付期間	平成	26	年度	～	平成	30	年度

目標												
大目標 健康都市づくりを目指したコンパクトシティ												
小目標① 多くの世代が行き交う賑わいの創出												
小目標② 医療・福祉が連携した健康の増進												
小目標③ 来街者・駅利用者及び地域住民の利便性向上												

目標設定の根拠												
まちづくりの経緯及び現況												
<p>笠間市の笠間地区、友部地区、岩間地区の3つの既存市街地は、JR常磐線とJR水戸線の駅、そして笠間稲荷神社を中心に商店街が形成され、街の賑わいを創出し活性化が図られてきた。しかしながら、人口減少社会の到来と急速な高齢化の進展により市街地の傾向が弱まり、中心市街地の空洞化が起きるとともに、人々の生活スタイルや居住環境に対する価値観が大きく変化してきた。</p> <p>友部駅周辺については、友部駅舎・自由通路を中心として整備を進め、平成21年度には市計画事業が終了し、茨城県が実施した県道杉崎友部線の拡幅整備事業も終了するなど、道路を含めた一定の環境整備は終了をしたといえる。</p> <p>また、駅の北東方向約500メートルに位置する公有地(南友部ふれあい公園)には、平成24年度に児童館がオープンし市民に活用されている。</p> <p>地域の特徴としては、県立中央病院や県立こころの医療センターが立地し医療福祉機能が充実した地域であり、福祉環境に配慮した市街地整備を進める必要がある</p>												
課題												
<p>友部駅周辺は、空き店舗・老朽化した店舗・ビルが目立ち、緑もなく人が集える場所もない状況にあり、友部駅舎だけが際立つ景観であり閑散としたイメージとなっている。</p> <p>また、交流および子育ての拠点となりうる児童館だけが孤立して整備されている状況にある。そこで、観光・文化交流都市の側面を持つ本市の玄関口であることを強く意識し、「活力ある地域づくりの推進」、「医療・福祉の推進」に繋がるよう、友部駅周辺市街地を整備する必要がある。</p>												
将来ビジョン(中長期)												
<p>笠間市総合計画後期基本計画</p> <p>笠間市の将来像「文化交流都市」の実現に向け、政策分野を横断して共有する重点視点として「健康都市づくり」「防災力向上」「地域の活性化」を掲げ各種施策を展開する。</p> <p>また、市街地の整備においては、本市の特性を生かし活力ある地域づくりを目指すため、広域交流拠点や地区生活拠点の強化、ネットワーク化を進め、市内外の交流の活性化を図るとともに、市民の理解と協力を得ながら、市民生活の質の向上につながる魅力ある市街地の整備を進める。</p>												
<p>笠間市都市計画マスタープラン</p> <p>「地域の将来像 … 賑わいとやさしさが迎える笠間の拠点空間」</p> <p>駅周辺の市街地とその周辺の住宅ゾーンが連携し暮らしやすさを実感できる地域としての機能充実を図る。そのため、駅周辺市街地においては、都市機能や医療・福祉機能の高度化を図るとともに、誰もが利用しやすい環境を備え、多くの人々が行き交う環境づくりを進める。</p>												
<p>友部駅周辺整備活性化プラン</p> <p>観光・文化交流都市の側面を持つ本市の玄関口であることを強く意識し、「活力ある地域づくりの推進」、「医療・福祉・子育ての推進」に繋がるよう、友部駅周辺市街地の整備を図り、「多くの世代が行き交う賑わいの創出」、「市民福祉(医療・福祉・子育て)の増進」、「来街者・駅利用者及び地域住民の利便性向上」を目指した、県立中央病院、畜産試験場跡地などの整備誘導との機能分担と連携により、超高齢化社会における市全体の居住環境の構築に資するものとする。</p>												

目標を定量化する指標												
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値						
					基準年度		目標年度					
NPO法人等活動団体数	団	友部地区で活動しているNPO法人等の数	活動の拠点整備を契機に、活動団体数を増やすことにより賑わいを創出する。	149	24	160	30					
定期的な運動習慣	%	市民アンケート調査	地域交流センターと市立病院が連携し、市民の健康意識を高め運動習慣を定着させ健康増進を図る。	33.9	23	35	28					
狭あいな道路の解消数	件	狭あいな道路が解消された道路沿線の宅地数	生活基盤の道路整備を行い、利便性の向上を図る。	0	25	102	29					
良好な市街地が形成されてきていると感じている市民の割合	%	市民アンケート調査	駅周辺市街地の都市機能強化により、良好な市街地が形成されていると感じる市民実感を高める。	36.19	24	38.70	30					

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>・多くの世代が行き交う賑わいの創出 子どもから高齢者まで多様な世代が駅周辺を行き交うことによる地域の活性化を図るため、笠間市駅周辺整備活性化プランの友部駅周辺整備計画に基づき、地域交流センターを整備する。</p>	<p>【基幹事業】 高次都市施設事業：友部地区地域交流センター 地域生活基盤施設事業：友部駅南自転車駐車場</p> <p>【提案事業】 事業活用調査：事業効果分析調査</p>
<p>・医療と保健、福祉が連携した健康の増進 公有地である南友部ふれあい広場に、すでに整備された児童館を始め、民間誘致した特別養護老人ホームや市立病院を整備し、医療・保健・福祉の連携を図るとともに、地域交流センターに健康ルームを整備し、各施設が連携をとった医療福祉サービスの提供を行う。また、周辺の道路をヘルスロードとして位置づけ、市民の健康意識を高める。</p>	<p>【基幹事業】 高次都市施設事業：友部地区地域交流センター</p> <p>【提案事業】 地域創造支援事業：ヘルスロード施設整備事業 事業活用調査：事業効果分析調査</p> <p>【関連事業】 市立病院建設事業：市立病院建設 特別養護老人ホーム設置事業：民間特別養護老人ホーム設置</p>
<p>・来街者・駅利用者及び地域住民の利便性向上 市道や排水の整備、都市公園の防災機能強化など、友部駅を中心に広がる市街地の都市機能を高める利便性の向上を図る。 地区交流センターを災害発生時の避難所として位置づけ、JRを利用する帰宅難民や地域住民の安全性を確保する。</p>	<p>【基幹事業】 道路事業：市道（友）1175、1180号線（改築） 道路事業：市道（友）1195、1196号線（改築） 道路事業：市道（友）1級6号線（排水） 高次都市施設事業：友部地区地域交流センター 地域生活基盤施設事業：耐震性貯水槽 地域生活基盤施設事業：友部地区地域交流センター防災施設</p> <p>【提案事業】 地域創造支援事業：公共施設誘導サイン設置事業 事業活用調査：事業効果分析調査</p>
<p>その他 友部駅周辺の地域特性を生かすと共に、「地域の活性化」「駅利用者及び地域住民の利便性向上」「駅空間のイメージ向上」「未利用公有地の有効活用」という目的を持って、平成21年に完了した友部駅橋上駅舎、南北自由通路等の基盤整備の効果を高め、賑わいのある持続可能なまちの構築を目指し策定した「笠間市駅周辺整備活性化プラン」において、友部駅周辺の公有地を活用し、笠間市立病院の建設及び特別養護老人ホーム（誘導施設）を整備することとしている。</p>	

